非鉄金属市況と需給動向

2022年7月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいますようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

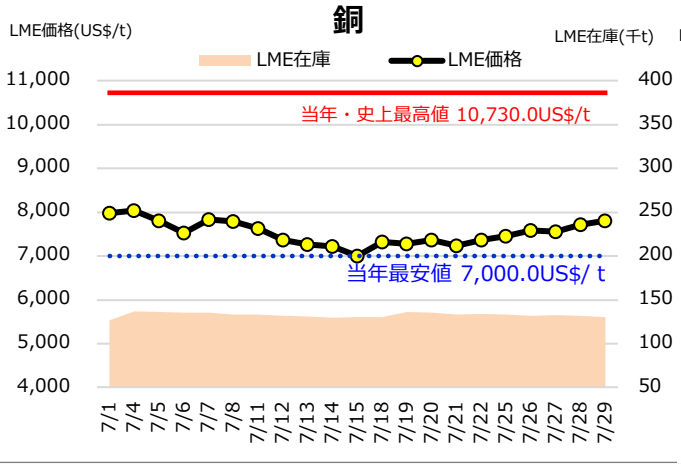
上旬は世界経済低迷から下落し記録的ドル高で当年最安値を更新、下旬は供給懸念が価格を押し上げ

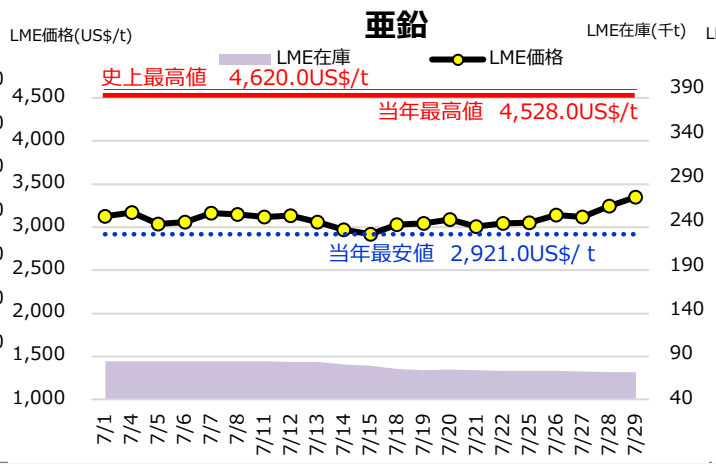
■7月市況動向

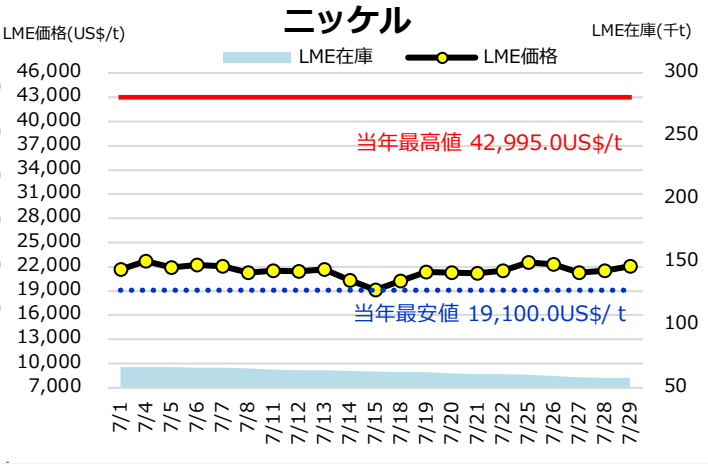
① **上旬については低迷する世界経済による需要減退見込みと米ドル高が続き、3鉱種ともに下落：**当月、銅は7,975.5US$/t、亜鉛は3,125.0US$/t、ニッケルは21,650.0US$/tでスタートした。上旬は、欧米の弱い経済指標と、6月米CPIが対前年同月比9.1%増と40年ぶりの高水準となりFRBによる利上げ加速の見込みが価格を圧迫した。中国では、6月製造業PMI（6月30日発表）が4か月ぶりに節目となる50を上回ったほか、政府は7日に地方政府への特別債発行許可を検討するなど景気刺激策を打ち出し、小幅な価格上昇もあった。一方、局地的なロックダウンなど新型コロナウイルス規制強化が断続的に行われたため、大幅な価格上昇要因とはならず価格への影響は限定的だった。加えて、米ドルが対ユーロで等価に近づくなど記録的な高値となり、15日に銅は7,000US$/t、亜鉛は2,921.0US$/t、ニッケルは19,100.0US$/tと当年最安値をつけた。

② **下旬については銅とニッケル、中国需要増加期待と供給懸念・在庫減少により上昇：**中国政府が17日にインフラ投資増加や不動産市場支援等の新たな景気刺激策を打ち出し、銅およびステンレス向けニッケル需要への増加期待により、銅・ニッケルは上昇した。加えて、供給懸念と低水準の在庫も支援材料となり、期末は銅が7,800.5US$/t、ニッケルが22,050US$/tと期初と同水準まで回復した。銅の供給懸念・在庫減少については、MMG社、伯Vale、チリAntofagasta社が2022年銅鉱石生産量見通しを引き下げたことが影響した。ニッケルは、インドネシアでバッテリーグレードのニッケル供給量が伸び悩んでいるほか、米国大手自動車メーカーがEV投資を加速したことによるEV電池向け需要が増加し、在庫が13年半ぶりに60千tを下回った。

③ **亜鉛、電力高が続く欧州における減産懸念が価格を押し上げ：**亜鉛は、Nord Stream1パイプラインの天然ガス供給量削減による欧州の電力高などから来る減産懸念が、価格を押し上げた。11日にNord Stream1は保守点検のため停止したが、ロシアからのカウンター制裁が再開を妨げるかどうか懸念され、価格の下支え要因となった。21日に供給は再開されたものの、ガス供給量は30%程度と保守点検前から10ポイント近く減少し、さらに25日に20%まで削減されることが発表され、それぞれで価格上昇が見られた。在庫も低水準下で減少しており、期末は3,351.0US$/tと期初を上回った価格で越月した。







需給動向 -銅-

2022年5月鉱石生産量は増産、地金需給バランスは中国の増産により5千tの供給過剰と3か月ぶりの過剰に

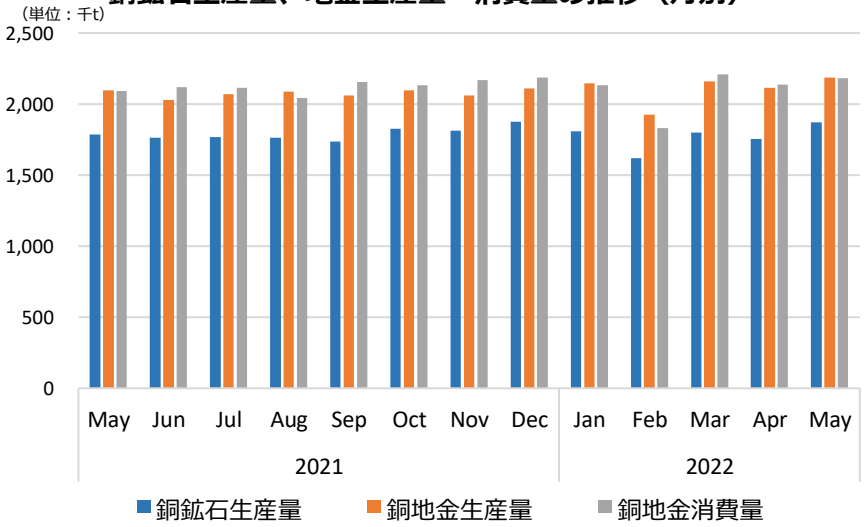
■需給動向

① **2022年5月銅鉱石生産量、大幅増加：**国際銅研究会（ICSG）2022年7月発表データによると、2022年5月の鉱石生産量は1,874.0千t（対前月比6.8%増、120.0千t増）と対前月比で増加した。チリ、中国、DRコンゴ、ペルーでそれぞれ対前月比13.2%増、13.4%増、3.4%増、2.2%増と順調に増産したことが影響した。

② **2022年5月地金需給バランスは3か月ぶりに供給過剰：**2022年5月の地金生産量は2,189.0千t（対前月比3.4%増、72.0千t増）、地金消費量は2,184.0千t（対前月比2.1%増、44.0千t増）で5千tの供給過剰となった。地金生産量は中国・日本・ブラジル・米国で増加した。地金消費量は中国で増加したが、ロックダウンによる景気低迷により需要増加幅は小さく、供給過剰につながった。

③ **2022年1～5月地金需給バランスも供給過剰に：**ICSGによると、1～5月の需給バランスは43千tの供給過剰となった。地金生産量はチリが前年同期比2.4%減となったが、中国やDRコンゴの増産が全体の増加量を押し上げた。地金消費量はロックダウンの影響による中国で減少した。

銅鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



■企業動向

① **CODELCO（チリ）：**Ventanas製錬所の操業を再開（7月2日）。

② **Anglo American（英）：**Quellaveco銅プロジェクトにおいて銅精鉱の生産開始、フル操業開始後はペルーの銅生産量を約10%増産させる見通し（7月12日）。

③ **MMB社（墨）：**El Boleo銅鉱山において労働者によるストライキが発生、鉱山操業再開および同社の存続が危機に（7月14日）。

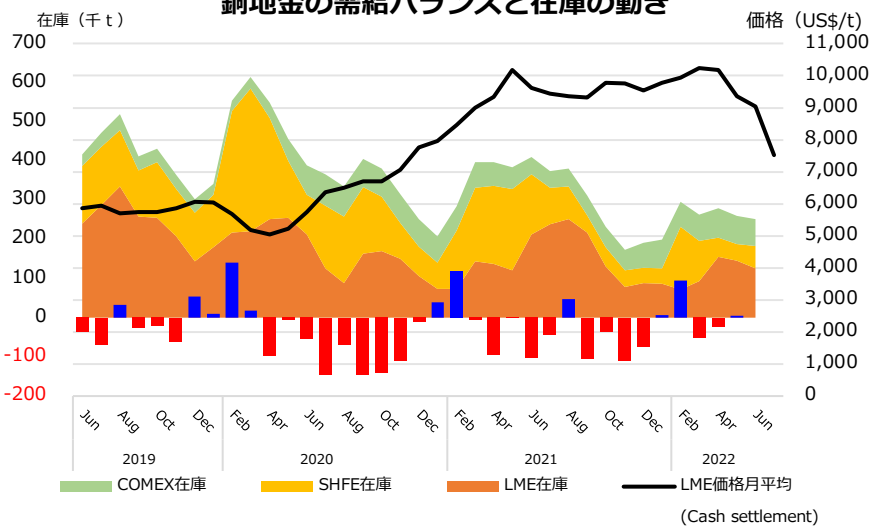
④ **CODELCO（チリ）**：労働者死亡事故により、Rajo Inca銅プロジェクトの建設作業を一時停止（7月18日）。その後2件目の死亡事故を受けて、現場の安全管理を見直すため、さらにChuquicamata Subterránea、Andina、El Teniente銅プロジェクトを一時停止（7月22日）。

⑤ **South32社（豪）**：Aldebalan社に出資、Altar銅・金プロジェクトを推進（7月22日）。

⑥ **Aztec Minerals社（加）**：加Kootenay Silver社との合弁企業に関しKootenay社の持分35%を取得する売買契約締結、Cervantes金・銅プロジェクトの全権益獲得（7月26日）。

銅地金の需給バランスと在庫の動き

（出典：ICSG）



※需給バランスのデータは、公表されている2022年5月まで反映。

（出典：ICSG）

需給動向 -亜鉛-

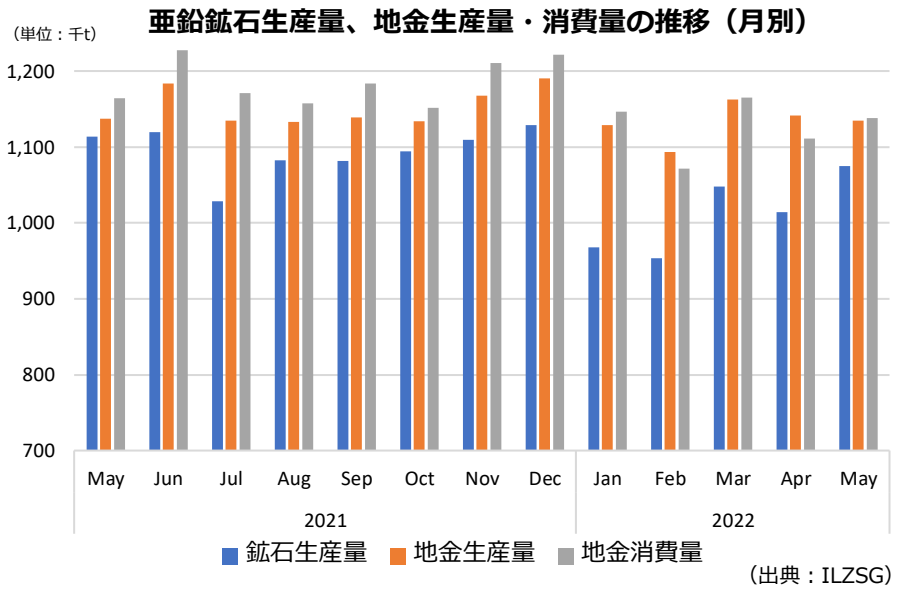
中国・ペルーで鉱石生産量増加、英・仏・台の地金消費量増加により需給バランスは再び供給不足へ

■需給動向

① **2022年5月鉱石生産量は増加：**国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2022年7月発表データによると、2022年5月の鉱石生産量は1,075.3千t（対前月比6.0%増、60.6千t増）と対前月比で増加した。中国、ペルーでそれぞれ対前月比12.5%増、18.4%増となり、伸び幅を押し上げた。一方、Perkoa鉱山の操業停止が続くブルキナファソでは生産量がゼロとなった。

② **2022年5月需給バランスは再び供給不足に：**2022年5月の地金生産量は1,134.7千t（対前月比0.6%減、7.3千t減）、地金消費量は1,138.6千t（対前月比2.5%増、27.6千t増）で3.9千tの供給不足となった。地金生産量が横ばいであったのに対し、地金消費量が増加したことが影響した。地金消費量について、イタリア・米国・日本では減少したが、イギリス・フランス・台湾での増加が上回った。中国は地金生産・消費量共に横ばいだった。

③ **2022年1～5月需給バランスは供給過剰：**WBMSによると、2022年1～5月の亜鉛地金需給バランスは、218千tの供給過剰となった。地金生産量は対前年同期比で1%増となった一方、地金消費量は同比3.2%減となった。

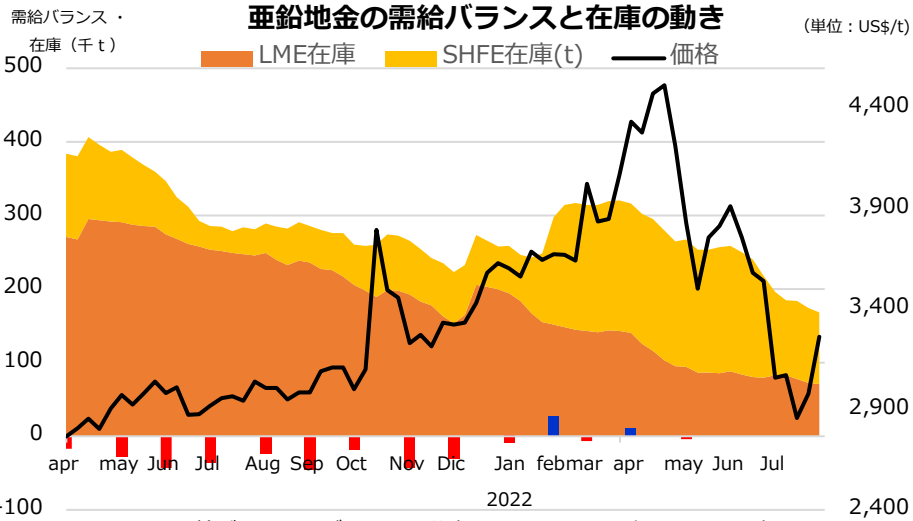


（出典：ILZSG）

■関連動向

① **世界の自動車生産台数：**各種報道によると、2022年5月は6,222.3千台で、対前月（5,489.0千台）比で13.4%増加した。中国（約700千台）の増産が大きく影響した。

② **日本の亜鉛めっき鋼板生産量：**(一社)日本鉄鋼連盟によると、2022年5月は673千tで、対前月（639千t）比で5.3%増加した。



※需給バランスのデータは、公表されている2022年5月まで反映。

■企業動向・その他

① **Nexa Resources社（伯）：**伯Aripuanã多金属鉱山（Mato Grosso州）の生産を増強、2023年第2四半期にフル生産の見込み（7月6日）。

② **Kaz Minerals社（香）：**中国へのAlashankou鉄道踏切使用禁止が解除、亜鉛・鉛精鉱の輸送を再開（7月13日）。

③ **Korea Zinc社（韓）：**豪QLD州Sun Metals亜鉛精錬所の拡張、2022年第4四半期以降に延期（7月21日）。

需給動向 -ニッケル-

尼、将来のバッテリー需要増加を見込み供給量も増加見込み、Class2ニッケルに輸出税課税の動きも

■需給動向

① **プライマリーニッケル5月需給バランス：**国際ニッケル研究会（INSG）2022年7月発表データによると、2022年5月の世界ニッケル需給バランスは20.7千tの供給過剰となった。

② **プライマリーニッケル2022年1～5月需給バランス**：INSGによると、2022年1～5月プライマリーニッケル生産量は1,182.0千t、消費量は1,166.0千tで16.0千tの供給過剰となった。

③ **尼、2025年までに世界のNi供給量の6割を担う：**Macquarie社のJim Lennonアナリストは、インドネシアでバッテリー向け原料の生産能力の増強に伴い、今後同国からのニッケル供給量が増加すると見込む。2020年に世界供給量のうち30%だったインドネシアからの供給量が、2025年には60%になるとのこと。（7月21日）

■関連動向

① **露Norlisk Nickel社Potanin CEO、露Rusal社との合併に言及：**Norlisk Nickel社のVladimir PotaninCEOは、露宇侵攻の西側諸国の制裁に対抗するため、Rusal社と合併する可能性を示唆。（7月6日）

② **米Ford社、EVバッテリーおよび原料調達に関する取組を公表：**2023年および2026年のEV販売台数目標達成のため、中CATL社、Vale Canada、PTVI、BHP等と拘束力のないMOUを締結。（7月21日）

③ **尼、2022年Q3にニッケル輸出税規則を発行：**Septian Hario Seto海事・投資副調整大臣は、NPIとフェロニッケルを対象とした輸出税の課税規則を2022年Q3に発行する方針であることを公表。（8月1日）

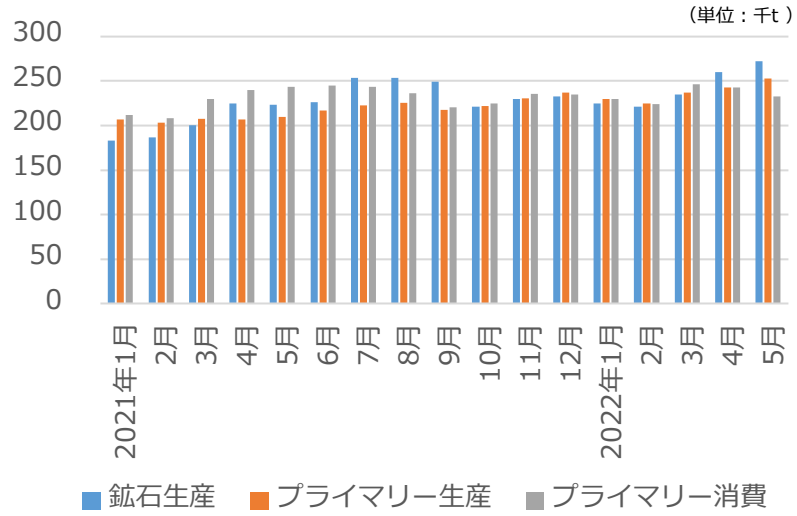
■企業動向

① **OZ Minerals（豪）**：WA州West Musgrave銅・ニッケルプロジェクトにおける最終投資決定（FID）を物価上昇や人手不足を背景に延期を検討。（7月25日）

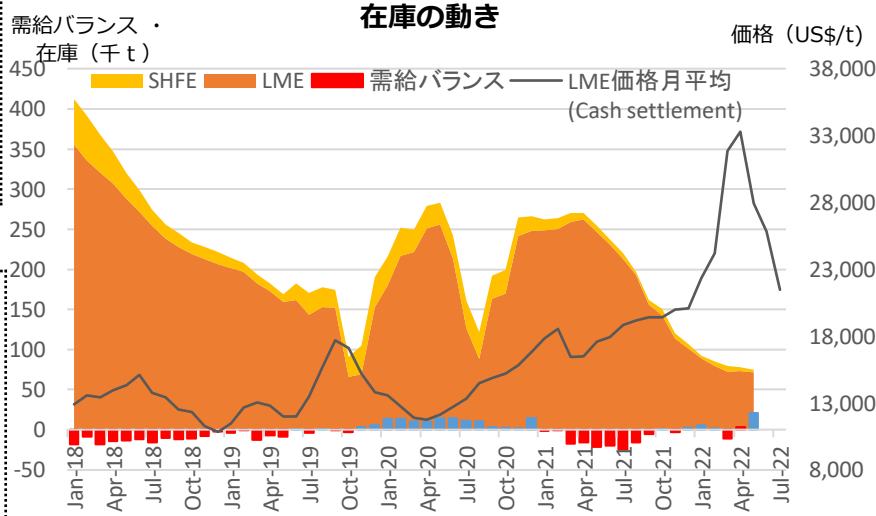
② **Norlisk Nickel（露）**：2022年Q2、H1の生産実績を公表。Q2は、フィンランド・Harjavalta製錬所のメンテナンスによって、前期比6%減の48千tの生産量。（7月28日）

③ **PT.QMB NEW ENERGY MATERIALS（尼）**：生産能力30千t/年の第一段階の開発と初期ラインが6月末に完成、7月末に原料不投入での試運転を開始。（8月1日）

鉱石生産量・プライマリーニッケルの生産量と消費量



プライマリーニッケル需給バランスと在庫の動き



（出典：INSG及びBloomberg）

市況動向 -金・白金族-

金、約20年ぶりのユーロ・円安、ドル高水準で前半は下落も、後半は欧州の景気後退懸念等から上昇

■金市況動向

① **ドル高進行、約20年ぶりのユーロ・円安水準で下落：**当月1,796.6US$/ozでスタート、インド政府が需要抑制や貿易赤字縮小のため金の輸入関税を7.5%から12.5%に引き上げたほか、米国ISM製造業景況指数が53.0と予想（54.5）に届かなかったこと等を反映し、前月終値より下落した。が翌日値を戻し、当月最高値の1,807.7US$/ozをつけた。しかし翌5日以降は、ユーロや円に対してドル高が続き、下落基調が15日まで継続し、1,704.4US$/ozまで下落した。6日発表の米連邦公開市場委員会（FOMC）で次回会合で再び0.75%の利上げが示唆されたこと、13日発表の米消費者物価指数が対前月比1.3%増と予想（1.1%増）を上回る伸びとなったほか、14日には、2002年12月以来となる約20年ぶりにユーロドルのパリティ（1€＝1US$）に近づき、円も24年ぶりに139円/US$となったこと、中国の新型コロナ蔓延によるゼロコロナ政策や、インドの輸入関税引き上げによる需要減退も影響した。

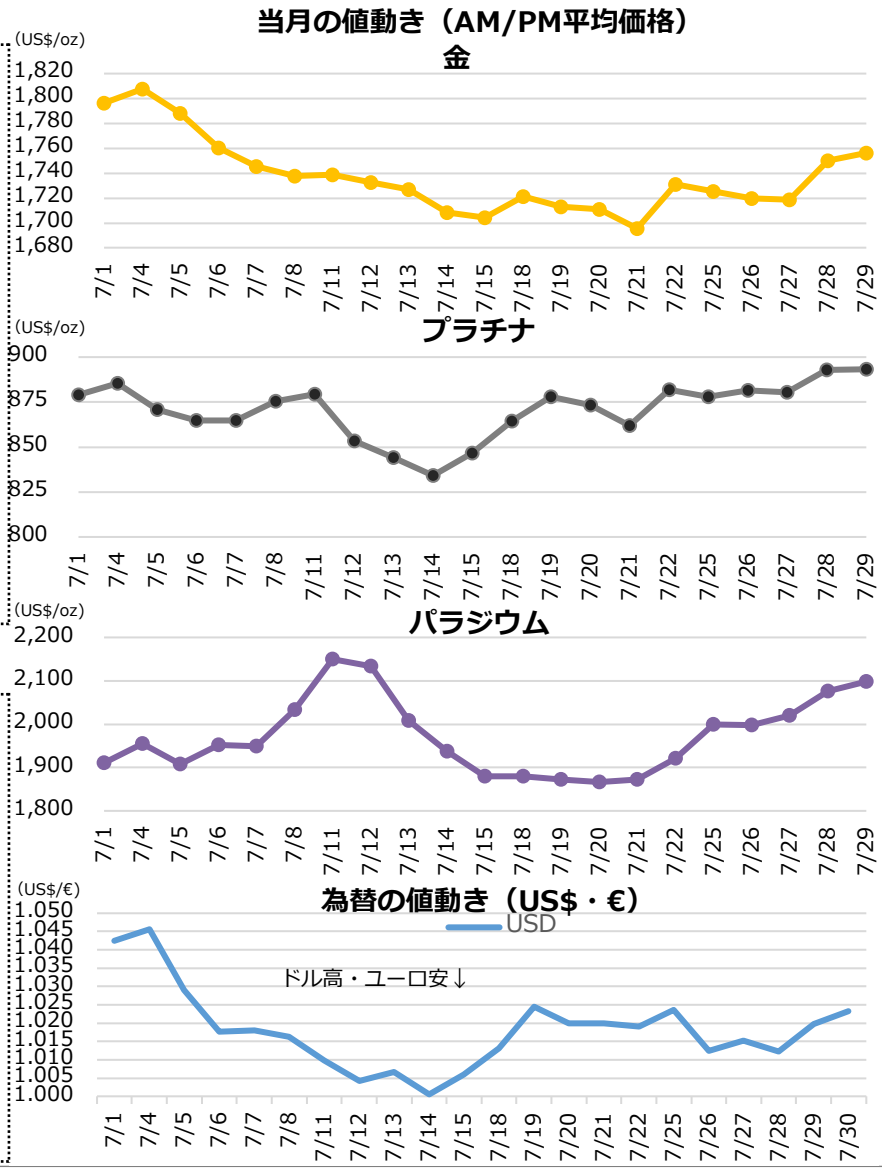
② **欧州の政策金利上昇と米国GDP悪化で値を戻す：**週明けの18日には値を戻したが、21日に当月最安値の1,695.8US$/ozをつけた。しかし同日、欧州中央銀行（ECB）が政策金利の0.50%引き上げを決め、景気後退への警戒感等から翌22日、対前日比35US$/oz上昇した。また28日発表の米GDP第2四半期速報値が対前期比年率0.9%減とマイナス成長となったことで更に上昇、翌日1,756.2US$/ozで越月した。

■白金族（PGM）

① **プラチナ市況：**当月879.0US$/ozでスタート、欧州におけるロシアからのエネルギー供給不安、それによる景気後退懸念や自動車生産の低迷等から、800US$/oz台の安値が継続した。14日、金につられ下落し当月最安値の834.0US$/ozをつけた。翌日以降は、欧米の資源会社等の株価が好調なこと等を背景に上昇し、当月最高値の893.5US$/ozで越月した。

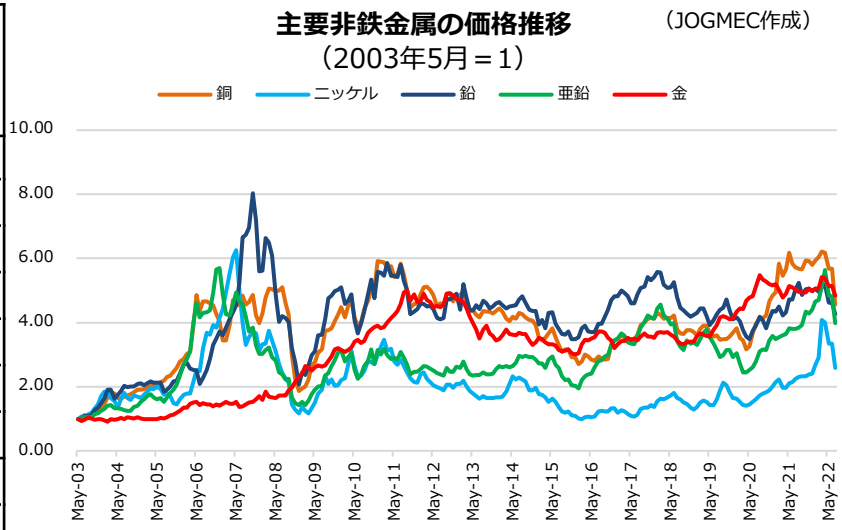
② **パラジウム市況：**当月1,910.5US$/ozでスタート。11日、露から独に天然ガスを供給するパイプライン「Nord Stream1」の停止の報道を受け、露・欧州関係の悪化懸念から上昇、当月最高値の2,150.5US$/ozをつけた。その後はドル高の影響等から下落に転じ、20日、当月最安値の1,867.0US$/ozをつけたが、22日以降金・プラチナ同様に回復し、2,098.0US$/ozで越月した。

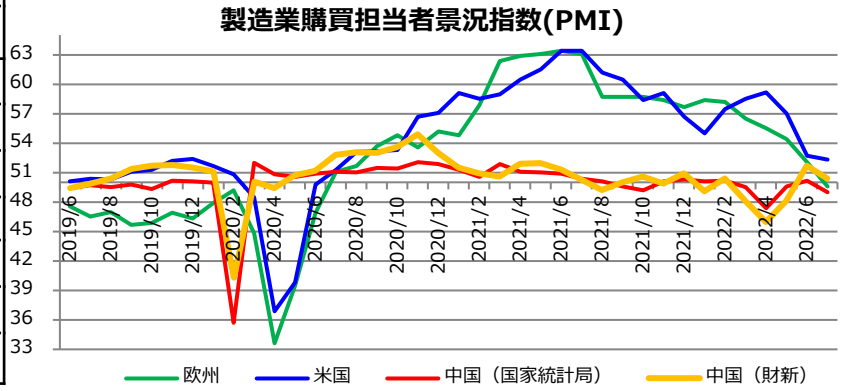
③ **JSC Afromet社（露）：**ジンバブエKuvimba Mining House（KMH）社と50%ずつ保有していたジンバブエGreat Dyke Investments（GDI）社の株式をKHM社に売却、ジンバブエDarwendale PGMプロジェクトから完全撤退。（6月9日）



（参考）

		銅 LME現物 (US$/t)	亜鉛 LME現物 (US$/t)	ニッケル LME現物 (US$/t)	金 AM・PM平均 (US$/oz)	プラチナ AM・PM平均 (US$/oz)	パラジウム AM・PM平均 (US$/oz)
本報告期	期 初	7,975.5	3,1250	21,650.0	1,796.6	879.0	1,910.5
	期 末	7,800.5	3,351.0	22,050.0	1,756.1	893.5	2,098.0
	最高値	8,036.0	3,351.0	22,685.0	1,807.7	893.5	2,150.5
		7月4日	7月29日	7月4日	7月4日	7月29日	7月11日
	最安値	7,000.0	2,921.0	19,100.0	1,695.8	834.0	1,867.0
		7月15日	7月15日	7月15日	7月21日	7月14日	7月20日
	平 均	7529.8	3,097.2	21,483.3	1,737.6	870.7	1,972.6
先物 (7月29日)	3か月	7,792.0	3,262.0	23,030.0	–	–	–
	Dec 23	7,770.0	2,905.0	23,350.0	–	–	–
	Dec 24	7,765.0	2,645.0	23,575.0	–	–	–
2022年 （当年）	期 初	9,660.0	3,602.0	20,730.0	1,810.3	969.0	1,881.0
	期 末	7,800.5	3,351.0	22,050.0	1,756.1	893.5	2,098.0
	最高値	10,730.0	4,528.0	42,995.0	2,023.0	1,150.0	3,177.0
		3月7日	4月19日	3月7日	3月8日	3月8日	3月7日
	最安値	7,000.0	2,921.0	19,100.0	1,695.8	834.0	1,816.5
		7月15日	7月15日	7月15日	7月21日	7月14日	6月14日
	平 均	9,435.4	3,725.1	26,793.4	1,854.5	976.9	2,180.8





米国経済	7月の製造業PMI（IHS Markit社発表）は52.3（前月：52.7、予測：52.0）と、前月からやや下落した。7月非農業部門雇用者数は前月比52.8万人増（前月：37.2万人増、予測：25.0万人増）と、前月を遥かに上回った。失業率は3.5%（前月：3.6%、予測：3.6%）と、前月からやや好転した。
中国経済	7月製造業PMIについて、国家統計局発表は49.0（前月：50.2、予測：50.4）、財新発表は50.4（前月：51.7、予測：51.5）と、前月から下落した。
欧州経済	7月製造業PMIは49.6（前月：52.1、予測：51.1）と、前月から下落した。